

ウイルスと人類と智慧

曹洞宗北米別院 禅宗寺 国際布教主任
小島秀明

智慧という言葉はもともとインドからきた仏教用語です。すべての物事やその背景にある道理を見きわめ、正しく判断し、処理する心の働きです。人間の苦しみを取り除く最大の鍵がこの智慧です。

今私たちは新型コロナウイルスによる経験のないパンデミックの中にいます。すでに多くの人々が亡くなり、ウイルスの脅威に脅かされています。私たちは精神的にも経済的にも不安を抱えていつまで続くのか分からないこの非日常の生活をおくっています。しかし、これは今に始まったことではありません。人類誕生以来、私たちの先祖が遭遇し格闘してきた大問題です。

人類の歴史は三つの闘いの歴史だと言われています。一つ目は食糧難、二つ目が戦争、そして三つ目がウイルス（感染症）です。私たちの祖先はこれらの闘いの経験から、克服するための知恵を積み重ねて私たちに命を繋いできました。

それは食料の大量生産、大量輸送を可能にし、飢えに苦しむ人は世界的にも減っています。沢山の戦争を経て多くの国が戦争を避け平和を維持する努力に努めています。しかし、それでも世界の一部では今でも飢餓や戦争に苦しむ人がいます。闘いは今なお続いています。

ウイルス（感染症）も同じです。古くはエジプトのラムセス5世のミイラからも天然痘に感染した痕跡が確認されているそうです。中世に起こったペスト（黒死病）では1億人が死亡したと推計されています。当時の世界人口が4億5千万人です。ヨーロッパの人口の三分の一が死亡したと言われています。

1817年に始まったコレラの大流行は数百万人を死に至らしめ、現在でも毎年2万人から14万人の命を奪っています。1918年に大流行したスペイン風邪では当時の世界人

口の 27%にあたる 5 億人が感染し、2000 万人から 5000 万人が死亡しました。当時の第一次世界大戦の死者数 1600 万人より遥かに多い数です。

人類は歴史的に見ても大規模なパンデミックの試練とずっと闘ってきたのです。

三千年前のミイラに確認される天然痘に人類がようやく撲滅宣言を出したのは 1980 年です。ジェンナーがワクチンを発見してから約 180 年間、全人類が力を合わせ努力した初めての感染症への勝利でした。

今私たちは新たな未知のウイルスと闘っています。何億人もの命と引き換えに得られた医療技術と衛生知識と智慧を武器に。

しかし智慧は知識とは違い情報からだけでは深まりません。実践と経験を通して個々人が育んでいくしかないのが智慧です。お釈迦様は五つの実践から智慧は生じると説かれました。

- 1 布施 分け与える
- 2 自戒 ルールを守る
- 3 忍辱 耐え忍ぶ
- 4 精進 努力を続ける
- 5 禅定 心を安定させる

一人一人が智慧を深め、全人類で力を合わせる時です。苦しみ多い今こそ。